高校野球における送りバントの有効性

The validity of the sacrifice bunt in high school baseball

1K07A011-6　池田仁

指導教員　主査　堀野　博幸先生　副査　岡　浩一郎先生

Ⅰ．はじめに

野球はサッカーやバスケットボールと異なり時間的制約がなく各チーム９回27個のアウトを取られるまで平等に攻撃のチャンスが与えられる．その27個のアウトを取られるまでに１点でも多くの得点を重ねるために様々な作戦が用いられる．

その中でも最も代表的なものがバント戦術である．送りバントやスクイズバントはトーナメント戦の高校野球において確実に得点を重ねる方法として数多く使用されてきた．

例えば，2004年の第76回春の選抜高校野球大会で準優勝した愛知県代表の愛工大名電高校は無死一塁になったら後続の２人の打者に送りバントをさせ，２死３塁の状況を作ることをセオリーとした．送りバントをする打者は金属バットを木製バットに持ち替えて打席に入るほどの徹底ぶりだった．その一方で2007年の第79回春の選抜高校野球大会においては静岡県代表の常葉菊川高校が５試合でわずか一つの犠打しか決めずに優勝した．1975年に金属バットが導入された以降の大会で議打数１のチームが優勝したのは史上初のことである．

はたして，甲子園大会においてバントを用いた攻撃が本当に有効であるのか．そして甲子園大会において有効な戦い方とは何かを本研究では分析している．

Ⅱ．研究方法

以下の資料を収集し，整理・分析した．

スコアブック： asahi.com （朝日新聞社）

2010年　2009年　夏　2010年　2009年　春

ビデオテープ： NHKを録画したもの

2010年　2009年　夏　2010年　2009年　春

Ⅲ．結果

無死１塁，１死１塁で送りバントを用いた場合と用いられなかった場合の得点確率を示したものが表１である．

表１ 無死１塁，１死１塁での得点確率

得点確率	無死１塁	１死１塁
バント有	43.30%	21.70%
バント無	43.50%	30.70%

表２は無死１塁，１死１塁で送りバントを用いた場合と用いられなかった場合の得点見込みである．

表２ 無死１塁，１死１塁での得点見込み

平均得点	バント有	バント無
無死１塁	0.701点	1.05点
１死１塁	0.46点	0.615点

Ⅳ．考察

本研究によって，送りバントは打撃技術の低い選手が用いることで得点確率をやや引き上げるが，イニングの得点見込みには良い影響を与えるものではないということがわかった．また，送りバントを相手より多く成功させるチームはその試合の勝率が格段に上がるという結果も導き出された．

野球というスポーツはバントをしたから勝てる，しないから勝てないという単純なものではない．今までセオリーといわれてきたものを疑うことでますます野球をすることが，野球を見ることが楽しくなると考える．今後，日本球界において送りバント，盗塁，ヒットエンドラン，ヒッティングなど様々な戦術を効果的に使い，現在以上に見ごたえのある試合が増えることを願っている．